

令和7年2月27日

戸田市共創のまちづくり補助金事業報告書(SDGs 応援事業補助)

(宛先)

戸田市長

団体名 戸田市福祉で防災ネットワーク

代表者職・氏名 会長

所在地

事業名	福祉防災講演会
実施期間	令和6年12月17日 ~ 令和7年2月13日

1 事業の具体的内容及び SDGs の成果

◎事業内容

上戸田地域交流センターあいパルにて毎年実施する、「福祉で防災ネットワーク」事業として講演会を実施した。

講師: 清泉女学院大学 北村千章先生、室先生

事業実施日: 令和7年2月1日

開催場所: 上戸田地域交流センターあいパル ホール

対象者: 市民

演題: ~障害のある方や医療的ケア児の災害時の避難訓練を通して~
「災害時、特別なニーズのある家族や隣人を守るために」

講演時間: 10~12 時

周知方法: 各公共施設にチラシ配架、市公式 SNS、福祉で防災特設ページ
(<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeMDj0wj7jj7yWBHJQI9DhIzL6Mt-jUJqPvmFSPGM-oaiAu2g/closedform>)

実施体制: 福祉で防災ネットワーク会員8人、託児ボランティア2人。

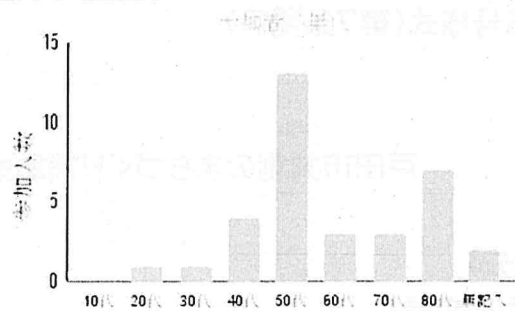
講演内容

- ・令和元年度東日本台風時における長野市の取組み(行政と病院との連携、避難所運営等)について
- ・医療的ケアとは、医療的ケア児の災害時の状況、避難についての課題について
- ・医療的ケア児が必要な電源と電力確保対策について
- ・避難所を想定した段ボールベッドの組み立て体験を実施した。

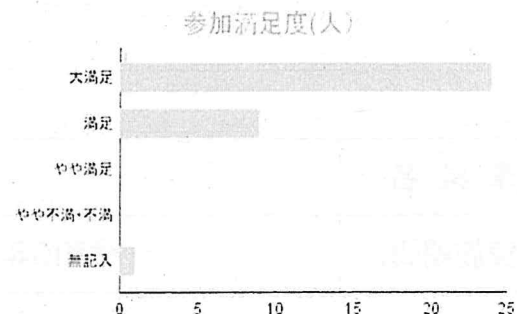
◎参加者意見(参加者アンケートより抜粋)

参加者: 37名

- ・避難所運営にあたってはどのような配慮が必要か等を受講参加者への周知・理解を広めることができた。



- ・内容に満足いただける講座を実施できた。



《講座の感想》

1. 医療的ケア児の避難における具体的課題への理解 についてのご意見

- ・動画を通じて医療機器の電源確保の重要性を知り、電気自動車の活用やシガーソケットでの通電など具体的な対策を学んだ。
- ・避難時の物資が多く、家族だけでの対応が困難な現状も理解できた。

2. 地域コミュニティの連携と支援体制の構築 についてのご意見

- ・医療的ケア児の存在を地域に知ってもらう。
- ・避難所運営に住民が参加することが大切。
- ・支援の呼びかけに消極的な住民への働きかけ方や、継続的な活動の難しさがある。

3. 実践的な防災対策と今後の活動意欲 についてのご意見

- ・長野県の先進事例から具体的な行動の大切さを学んだ。自助・共助・公助の連携や福祉避難所の確保について、戸田での実践につなげたい。

《自治体の課題について》

1. 当事者視点の政策立案と支援の包括性 についてのご意見

- ・障害のない人の視点だけでなく、当事者を交えた防災計画の策定が必要。
- ・発達障害や医療的ケア児に限らず、難病や高齢者など、災害時に支援が必要な全ての人々を包括的に支援するシステムづくり。

2. 福祉避難所の整備と情報共有の仕組み についてのご意見

- ・長野県の事例を参考に、指定福祉避難所の開設が強く望まれる。
- ・支援が必要な人々の所在を把握し、個人情報に配慮しながら地域で共有できる仕組みや、分かりやすい避難情報の表示方法の確立が必要。

3. 地域コミュニティの活性化と連携強化 についてのご意見

- ・町会加入者でも近所付き合いが希薄化している現状があり、行政主導での具体的な取り組みが求められる。
- ・専門家でなくても支え合えるネットワークづくりや、若者の防災意識向上など、地域全体での連携強化が課題。

今後はアンケート結果を担当課に報告し、医療的ケア児について理解を深め、避難所運営

の改善につなげていきたい。

◎SDGsの成果

住み続けられるまちづくりを

今回の講演会では、参加者に「障害のある方や医療的ケア児の災害時の避難訓練」について学んでいただいた。障害当事者として基礎知識を知っていただくこと、学びを活かした行動に移すことが大事だということを参加者に情報提供したことで、「SDGs11 住み続けられるまちづくりを」を達成することができた。今回の参加者には、講演会で学んだことを活用していただき、有事の際の活躍を期待する。

パートナーシップで目標を達成しよう

今回の講演会で得た参加者の意見については、障害当事者を含む市民、当団体、自治体の協働によって課題の共有、解決に向けた活動に活用できると考える。したがって「パートナーシップで目標を達成しよう」を達成できた。





2 事業実施のスケジュール

月 日	内 容
12月7日	定例会
1月11日	定例会
2月1日	アクティブ避難デイ 講演

3 事業の実施体制

ホールの準備や片付け、講師手配、講演受付、SNS による周知等、会員同士手分けして実施を進めた。

SNS での周知と申込みについて、会場の上戸田地域交流センターあいパルとこれまでに以上に連携をとり、協力して実施した。

福祉で防災ネットワーク会員8人

託児ボランティア2人

4 反省点と課題

- ・当日、参加者により深い学びを得るために資料配布があれば良かったと反省している。

- ・時間配分がうまく調整できず、講演終了時間が 12 時を過ぎてしまった。

- ・質問を多く受けたかったが、時間の調整で 1 人のみであった。

参加者の中には、福祉避難所における備蓄品の状況を知らない方も多数見られたため、市における福祉避難所の実態を周知・啓発する活動を展開する必要があると感じた。

また、団体同士が支えあえるネットワークづくりが不十分であることを課題として認識していた。障害当事者や関係者の声を集め、福祉的な視点をまとめることでよりよい避難所運営につなげていくために、団体同士のつながりを強める必要があると感じた。

《収支報告書》

【収入】

(円)

科 目		予 算 額 ①	収 入 額 ②	比 較 (②-①)	内 訳
補助金・ 助成金	当補助金	50,000	50,000	0	
	その他				
自己資金		6,946	2,590	▲4,356	
会費(参加費等)					
利用者負担金(売上等)					
協賛金・寄附		3,800	0	▲3,800	
その他					
合 計		60,746	52,590	▲8,156	

【支出】

(円)

	科 目	予 算 額 ①	支 出 額 ②	不用額 (①-②)	内 訳
補助 対象 経 費	謝礼金	50,000	50,000	0	講師への謝礼(長野県からの 交通費込み) 【交通費内訳】 須坂駅―戸田公園駅 片道 7,250 円 往復 14,520 円
	消耗品費	4,086	0	4,086	
	印刷製本 費	2,860	0	2,860	
	小 計	56,946	50,000	6,946	※支出額内訳 補助金充当額:50,000 自主財源:0
補助 対象 外 経 費	食糧費	3,800	2,590	1,210	団体への菓子代

経費

	小 計	3,800	2,590	1,210	
	合 計	60,746	52,590	8,156	

